当寂光院は千手観音様をご本尊とする尾張の最古刹でございます。真言宗智山派に属し、総本山は京都東山七条にある智積院でございます。智積院のお隣に三十三間堂がございます。私は若い頃から、御本山での講義の帰り、よく三十三間堂を訪ねては、あの壮大なお堂の中の、総勢一〇〇一体（正面に千手観音坐像、左右に前後十列の階段状の壇上に等身大の千体の観音立像が整然と並ぶ）千手観音様にお会いすることが楽しみでございました。

しかし、歳を重ねて還暦を過ぎた頃でしたか、歌人・今井邦子（一八九〇～一九四八）さんが「三十三間堂」にて詠まれた

「立ち並ぶ　仏の姿　今見れば　皆悲しみに　耐えしみすがた」

に出逢って後、はじめて千手観音様の真のお姿にふれたような気がしたものでございます。

観音様は、ありとあらゆる苦しみを経験され、その苦しみを一つずつ乗り越えられたからこそ、手を合わせて祈る私達のそれぞれの心に寄り添って下さるのだと思いました。

私も本年「傘寿」、数え八十歳を迎えました。誰にもいえない『憂い・悲しみ・苦しみ・悩み』を抱えることもございました。途方に暮れて、生きるのが嫌になることもございました。毎朝本堂での勤行の最後に「天下泰平、風雨順時、五穀豊穣、万民豊楽」と千手観音様に祈るのですが、更にもう一つ、先ず「人生」という二文字を手の平に書き、「人が生きると書いて人生、生きなくてはならないのが人生、途中で止めるわけにはいきません。こんな私ですが、前向きに生き抜く勇気が戴けますように」と願ったものです。

現今の混迷の世情、世界あちこちの戦禍、気候変動に伴う自然災害を前にすれば、なおさら心が折れそうになります。そんな時には、そっと手を合わせてみてください。仏教では右の掌は仏様、左の掌は一瞬一刻変わっていく「今の私」です。手を合わせると「今の私」に千手観音様が寄り添ってくださいます。更に、千手観音様の御真言「オン　バザラ　タラマ　キリク」とお唱えください。御真言をお唱えする度に千手観音様が口から出ておいでになってお唱えする人をお守りくださいます。（※京都・六波羅蜜寺の「空也上人」像を思い出して下さい。「南無阿弥陀仏」の六字の名号を唱えるたびに口から阿弥陀様が出ておいでになります）

私どもはとにかく、「善きことを思い、善きことを言い、善きことをする」そして、「日々是好日・感謝の日暮らし」ができたらと念じてやみません。



千手観音（本堂）

「観音経」では観音様は「慈悲と智慧」の眼で人々の「憂い・悲しみ・苦しみ・悩み」を観て取り、その状況に応じて、最善の方法で人々をお救い下さると説かれます

犬山・寂光院山主
松平實胤